



「ライオン写真館」営業写真館を営むお父さんは1975年写専卒。息子は現在、写真学科営業コースの2年生。父が息子に教えることは「一期一会」技術的なことは自分の努力で補えるが、人との出会いは、この瞬間しかないかもしれない。だから大切に。

岩佐 満明 × 美保 × 夏実 × 淳平 × 彩加

©ライオン写真館

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.27

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY



お母さんはジムに通っているが、習字の趣味があるらしい。息子の淳平の字はお世辞にも美しいとはいえない。どうやらこの部分は親子でも似ていないのだから。似ている点はお母さん譲りの優しさだろうか。

©ライオン写真館

父と母はジム通いで健康を保つ、ボクは写真と野球で健康です。

大黒柱のお父さん(満明・62)の写専時代はどんな学生でしたか?「そりゃー、もう写真一筋でしたよ(笑) 小さな声で「いや、麻雀とか遊びもすっかりと・・(笑) 写真の技術は真剣に勉強しましたよ。ライオン写真館は私で三代目です。息子にはすっかりと渡してあげたんですから」頼れる父親の顔になった。そばでは奥様(美保・59)が微笑む。そんな二人を見ている長男(淳平・24)が言う「父、母、共に尊敬しています。大学まで行かせてくれて、好きな野球もさせてくれて感謝しています。特に母からは人との触れ合いの大切さを教えてもらいましたね。心からの笑顔で相手をしつかりと見るっていうところですね。もし、相手が困っていたら、さりげなく手助けできる人になりたいです」生きる基本ですね。この心構えがあるからこそ、営業コースのクラスリーダーとしてみんなから信頼を得ているのだろう。

淳平君には姉と妹がいる。この三人は近畿大学を卒業している。姉を見て、兄を見て、子どもたちが両親をしっかりと見て育ったという共通点もある。家族は、祖父母の英雄さん(92)と律子さん(88)の7人構成になっている。「おじいちゃんもおばあちゃんも元気で強くに行っている長女(夏実・25)が帰ってくるんですよ。近頃の焼肉屋さんに出かけるんですよ。ここの焼肉が一番美味しいです(笑) 料理がおいしいのは家族の溢れる笑顔があるからだろう。」

今年の夏にお店の改装をしたようだ。改装時に昔の写真がいっぱい出てきたんですよ、おじいちゃんが撮った家族の写真です。親子って似るものですね。ボクはお父さんに似ていて、お父さんはおじいちゃんに似ていて(笑) 写真の素晴らしさがここにある。写真の魅力の一つに、記録が記憶として、過去の経験を蘇らせるというパワーがある。心の中にとどめ、忘れずについてまでも覚えている。それは永続的に保持される。そしてまた再現される感動と喜び。写真は宝物ですね。(は)